古文書が語る東大阪の歴史と魅力

本市では、古文書などの史料の調査整理を進め、その成果をみなさまにご紹介しています。今回は、小倉家文書と河内木綿です。
小倉家は、荒川村三ノ瀬の百姓代（村役人）などを勤め、史料には村の明細帳や老中松平定信への上書などがあり、当時の村の様子をいきいきと伝えています。河内木綿は近世において栽培が盛んになりました。古文書から広がる歴史の時空を一緒に共有しませんか。

【とき】8月26日(日)

申込不要（先着178名）
入場無料

歴史講演会：13:00～16:00（開場12:30）
※手話通訳をご希望の方は、8月10日（金）までにお申込みください。

パネル展示：11:00～16:30

【ところ】布施駅前市民プラザ多目的ホール（ヴェル・ノール布施5階）

会場にお越しの際は、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
駐車場をご利用の場合は有料となります。

市史史料室のウェブサイトへ移動します→

【お問合せ】
東大阪市 人権文化部 文化国際課市史史料室 電話：06-4309-3212 FAX 06-4309-3823

主催：東大阪市・甲南大学

（内容や順番等は変更する場合があります）

第１部（13:10～14:20）
江戸時代における村役人の書類作成-作成方法とノウハウの蓄積-

東谷　智（甲南大学文学部歴史文化学科教授、歴史文化研究センター研究代表者）

【主な内容】

江戸時代は大量に書類が作成される時代でした。村の運営中心となっていた村役人は、どのように書類作成の技量を高め、次代に継承したのでしょうか。東大阪市域の古文書からその一端を紹介します。

第２部（14:30～15:40）
近世後期河内における木綿流通の展開

今井　修平（神戸女子大学文学部史学科教授）

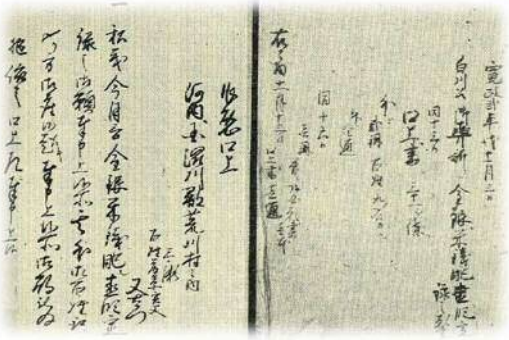
【主な内容】

河内木綿の流通について、平野、八尾、富田林など在郷町の木綿商人の活動に注目することにより、大坂の木綿問屋や仲買仲間の統制を受けない多様な流通形態が展開していたことを明らかにします。

展示コーナー（11:00～16:30）

「小倉家文書」

・小倉家文書の史料は『新発見！週間日本の歴史』第 35 号にも掲載され、江戸時代の三ノ瀬村のいきいきとしたようすを伝える史料です。このたび所有者のご厚意により展示させていただきます。



↑寛政期の駕籠訴史料

←綿の開花したようす

「河内木綿」

・河内木綿は近世に、新田を中心に栽培がさかんになりました。今にも伝わる道具から当時の時代の息吹を楽しめます。

「千代田之大奥」

・「千代田之大奥」は、明治期に昔の江戸の大奥のようすを描いた江戸画です。季節ごとのあざやかな色彩もお楽しみください。

千代田之大奥→